

お薬はどこに置いてありますか？～薬の正しい保管～

成羽病院薬局薬剤師 藤村智映子

薬の保管方法によっては、効果がなくなるばかりでなく、有害なものになってしまう場合があります。薬の正しい保管方法を確認してみましょう。



【直射日光・高温・多湿を避ける】

薬は光や温度、湿度によって効きめが落ちる場合が多くあります。車中や日差しが強い場所に置かないようにしましょう。冬は暖房器具による高温や結露にも注意が必要です。

【冷所保存の指示がある場合は冷蔵庫に保管】

冷所保管が必要な薬としては、シロップ剤や目薬、坐薬の一部、未開封のインスリンなどがあります。食べ物や飲み物と間違えないように区別して保管し、凍らせないように注意しましょう。

【子どもの手の届かないところに保管】

子どもの誤飲事故のうち、約2割は「医薬品、医薬部外品」によるものと報告されています。子どもは何でも口に入れたがります。食後に飲もうと用意していた薬をわずかな隙に口に入れてしまったケースもありますので、油断は禁物です。

☆薬と上手につきあっていくために、薬の情報（袋やラベル、説明書、お薬手帳）も大切に保管しましょう。

緊急時のためにも、保管場所は家族にも知らせてください。

☆薬の管理や廃棄での困りごとや残った薬の取り扱いなど、薬剤師に相談しましょう。

学園だより

1月～2月開催のイベントのご案内

☆吉備国際大学 たかはし子育てカレッジ Kiui 講座

子育ての環境、外遊びの環境づくりの支援など、現在の子どもを取り巻く環境について考えるとともに、これからの子育てについての示唆に富んだ内容の講演会です。

場所：吉備国際大学 13号館 3階(心理・発達総合研究センター)

講師：(有)毎日の生活研究所 代表 矢郷恵子さん

【子育て講座】「子育てで欠かせない外遊び～どうしたらもっともっと遊べるの～」

対象：子育てパパ、ママ(託児があります)

日時：1月19日(月) 午前10時～午前11時30分

【子育て支援者講座】「外遊びの環境づくりと支援について」

対象：子育て支援

日時：1月19日(月) 午後6時30分～午後8時15分

■問い合わせ 高梁市子ども課子ども支援係 ☎ 21-0288



☆吉備国際大学 大人市民講座「子どもに話そう！スマホ・SNSのちょっといいハナシ」

地域の大人たちがスマホとSNSにかかわる情報安全リテラシーの基本知識を知り、子どもたちと話し合うための基本的な心構えを身に付けていただけるよう、情報教育専門家とSNSの社会教育担当者による講演会です。

日時：2月8日(日) 午後2時～午後4時30分

場所：順正学園国際交流館 2階多目的ホール(奥万田町)

対象：高梁市およびその周辺地域の社会人および生徒・児童の保護者

■問い合わせ 吉備国際大学地域連携センター ☎ 22-9050

☆地域シンポジウム「不登校・ひきこもりの現状と課題」

日時：2月14日(土) 午後1時30分～午後4時

会場：順正学園国際交流館 2階多目的ホール(奥万田町)

対象：高梁市で不登校・ひきこもりの予防や支援に関わる教育・福祉・保健・医療関係者など

■問い合わせ 吉備国際大学地域連携センター ☎ 22-9050

九十八 落合町阿部 溝尻



落合町阿部に「溝尻」という地名があります。阿部の平野が井谷付近から成羽川に沿って東に広がり、高梁川と出会う付近にその地名が残っています。

阿部は中世には、川上郡近似郷阿部村でした。高梁川と支流の成羽川が合流する地点にあって「阿恵」・「相」・「合」などと呼ばれ、川の合流する地域を表す「落合」・「阿部」の地名で呼ばれていました。

「阿部」は「北山」の斜面と、現



●が「溝尻」付近。国土地理院 1:25000 地形図より

在の国道313号が通るより南側の平地(阿部平野)とに区別することができます。南側は現在、住宅や工場、スパーなどが建ち、この平地は江戸時代には、松山藩領では唯一、米の穀倉地帯として大切な場所でした。この「合の原」といわれた平野は、今では昔の面影がなくなり、水田地帯だった名残をわずかに留めるに過ぎません。この阿部の平地は以前、成羽川の河道だったところで、西に高く東に低くなっている、平地が高梁川に出る場所である市場地区は、洪水による被害が特に激しかった所なのです。

「阿部平野」は、成羽川の氾濫によって形成された「河成低地」、すなわち一種の「河成段丘」で、ほとんどが成羽川の河床だったことを示す、段丘礫層で形成されています。以前の成羽川は、井谷付近から現在の国道に沿って、東の旧「阿井の渡し場」の100mほど下流の「溝尻」付近で、高梁川に合流していたことが分かっています。現在の成羽川は、玉川町との境の山裾を流れています。「以前は、今の成羽川のほとり(現「あい橋」のたもと付近)には、二軒ぐらゐの家が並んでいました。明治二十六年(一八九三)の大洪水の時、流れてしまつて全滅したのです。そ

の時、被害に遭つた家は、現在、国道より北側の緩斜面の場所へ移転しています。成羽川の洪水はたびたびあつて、明治二十六年の時の洪水の水面の高さは13mもあつた」と平松竹夫さん(落合町阿部・九〇歳)が話してくれました。このように成羽川は、たびたび氾濫によって流路を変えていたことが分かります。

平成一〇年の「阿部遺跡の発掘調査」で、成羽川が国道寄りを行っていたころの河道の跡が発見され、「溝尻」へ流れ出て、高梁川と合流していたことが分かったのです。江戸時代、享保六年(一七二二)の大洪水の記録「江国掃部略日記」(吉備津神社文書)に「吉備地方史の研究」に、「古今聞きも及ばぬ洪水前代未聞の事」とあり、「高梁川よりは成羽川の水多く、阿部村付近の成羽川の異常増水も激しかった」などと書かれ、成羽川の上流は高梁川よりも急流が多く、阿部付近は成羽川の氾濫で大変な被害があつたことが伝えられているのです。

阿部の平地(段丘面)は、古くからの水田地帯だったため、新城池の水や井谷川の水、そして井谷付近から成羽川の水を取水する灌漑水路が、西から東へ幾筋も通つていて、その水は東の「溝尻」に集まつて



「溝尻」は竹やぶの付近で高梁川に合流

高梁川へ流れ出ていたのです。そのため、灌漑用水路が集まる「溝尻」付近は、砂礫層の低湿地で、今では畑作地域になっています。

「溝尻」という地名は、古い成羽川が高梁川と合流する場所だったこと、そして阿部の灌漑用水が集まって高梁川へ出る場所で、まさに「溝の尻」だったのです。

昭和四十七年ごろまでは、高梁川沿いの「溝尻」には猿尾もあつて、高瀬舟の舟溜りとなっていました。また、そこは若者達の集まる良き水泳場所でありましたが、昭和四十七年の河川改修によって、川湊の入り江もなくなり、以前の「溝尻」の名残もなくなつて、今では用水路の谷だけが面影を伝えてくれています。

(文・松前俊洋さん)